

## EX-11

### 小児病棟におけるベッド転落予防～成人用ベッド使用時の柵カバーについて～

福井赤十字病院 看護科

○井上恭久子

子どものベッドからの転落予防は、保護者、看護師の注意だけでなく、子どもの成長発達段階を踏まえ、患児の年齢、身長、病状などを十分配慮したベッドの選定にあわせ、適切な安全環境を整えておく必要がある。当病棟におけるベッド選択については、4歳未満の患児に対してサークルベッドを使用することを基本とし、患児の排泄行動や寝相について保護者から聴取したうえで、成人用ベッドも使用している。サークルベッドからの転落予防策としては、過去の転落事例をもとに当病棟独自のDVDを作成、保護者が視聴することでベッド転落の危険性への意識づけにつながっている。一方成人用ベッドからの転落予防策については保護者と相談のうえ、ベッドの壁側への配置やベッド柵の高さでベッド全体を囲う布製の柵カバーを作製し使用してきた。しかし添い寝をしていた母親が離れた間に、患児がベッドの隙間より転落する事例があった。そこで、患児の身体に対しての強度と頭や四肢が当たっても支障がないことを兼ね備えている素材と固定法について検討した。柵カバーの素材はテント生地とし、ベッド柵にしっかり固定できるよう固定用の紐を32組取り付け付けた。取り付け中にもベッド柵は倒せるため排泄行動が自立している患児にも適応でき、QOLの維持が図れるものである。使用後は清拭が容易にでき保管にも便利である。柵カバーの色は少しでも優しい雰囲気となるようアイボリーとした。検討した内容は当院管財課へ伝え、外部業者に作製を依頼した。

## EX-13

### 院内ストーマケア研修に自作のストーマモデルを使用した演習を導入して

姫路赤十字病院 看護部

○松本由美子、若松 良子、石原 里美、小林 里美、三木佐保子、楠田 尚美

当院では、ストーマケアの質の向上を図ることを目的に、「ストーマケア」研修を行ってきた。研修は3日間でパワーポイントを用いての講義を行った。1日目にストーマリハビリテーションとは、術前ケア 2日目に術直後ケア、装具選択について セルフケア指導 3日目に小児のストーマケア 社会保障という内容で、日頃ストーマケアにかかわっている者を対象に行ってきた。実際の写真を提示することで、受講者からは「よくわかった」「いろいろなストーマの写真を見ることができてよかった」という意見があった。2010年から、より学びが深まり臨床実践能力の向上につながると考え、演習を取り入れることとした。ストーマモデルを使用して、ロールプレイ形式で、装具の剥離、皮膚の清潔、ストーマサイズの計測・観察、面板のカット、装具の装着までを行った。既成のストーマモデルは高価であるため、独自に作成したストーマモデルを使用し実施した。今回、独自に作成したストーマモデルの紹介とともに、2011年の研修受講者へのアンケート結果を報告する。

## EX-12

### 医療安全における情報共有カード

福井赤十字病院 医療安全推進課

○橋本 真弓

医療現場には多くの情報が氾濫しており、情報共有は重要な課題である。当院における、情報共通アイテムとしてのカード1.お薬カレンダーメッセージカード2.転倒転落予防ピクトグラム3.作業中断カード を紹介する。1.お薬カレンダーメッセージカード：入院中患者の内服管理は、「お薬カレンダー」を使用している。しかし、処方日の異なる薬、あるいは継続内服が必要な薬、中止予定薬、持参薬等が混在して管理されており、薬剤管理に支障をきたすことがある。また、カレンダー表示にしたがって内服すれば問題無いが、対象によっては異なる場所の処方を取り出して内服してしまう事例も時々報告される。これらの事故防止対策における情報共有のツールとして、「メッセージカード」を作成し運用している。メッセージの内容毎にカードの色を違え、現在9種類のカードが作成されている。2.転倒転落予防ピクトグラム：転倒転落リスク評価の結果を、危険度1・2・3の3段階に分類し、その結果を危険度別に色を変えてピクトグラムで表示している。マークは、患者の転倒転落を予見して注意し見守るの意味をこめてハートのマークを使用している。また、ピクトグラムにゴム輪を取り付け、患者が検査等他部門に移動するときは、ベッドや車椅子にカードを付け替え、常に患者とピクトグラムが一緒に移動する運用とし、転倒転落リスクの情報の共有化を図っている。3.作業中断カード：医療現場は多重課題の宝庫であり、中断しなくてはならない状況を避けることはできない。そのようなときに使用できるよう、携帯サイズのカードを全員に配布し個人名を明記して使用している。

## EX-14

### ギブスを素材としたシーネの作成

高松赤十字病院 看護部

○上野 薫、鈴江 佳子、新名 領子

はじめに：入院治療を受ける小児は点滴ラインの確保が難しく、ライン抜去等の事故を防止するため、これまで点滴ラインの固定には金属製のシーネを使用していた。そのため、MRI検査時には、非金属製のシーネに交換する必要があるが、検査前後で2回のシーネ交換が不可欠となり、患児に負担を与えることとなっていた。一般的にMRI検査に対応できる既製のシーネはあるがコストが高く本院では採用されていなかった。そこで私たちは、シーネ交換による患児の負担軽減とコスト削減に向けて、MRI検査でも使用可能で安価なシーネの作成(手背用・足背用)を検討した。結果及び考察：シーネをギブス素材で作成した結果、緊急のMRI検査時にもスムーズに対応できるようになった。さらに、検査前後でのシーネ交換の必要がなく患児の負担を軽減できるようになった。試作に用いたシーネは、児の年齢に合わせて自由な大きさにカットすることも可能であり、また、固定に関しても適した硬度であった。手背用に関しては当初の目的を達成し、現在は入院する患児に使用している。しかし、足背に使用するシーネは、児の足関節の動きに耐えられる強度ではなく、固定に適さなかった。今後足背用のシーネの試作を引き続き検討していく。